林陽氏のフリーメーソン解説

著書『ヘロデの呪い』の訳者である林陽氏はその解説として次のように記されています。

> 「近代フリーメーソンは、1717年6月24日に社会的名誉職として当時特権階級を成していた、行動的メーソン（ようするに石工）の組合を統一する、英国大ロッジの結成をもって発足したといわれている。この新メーソンは、自由、平等、博愛に基づく理想の精神的神殿（世界普遍宗教の理想世界）の建築を究極目標とし、それまでの石工の組合とはまったく異質な思想宗団として、思弁的メーソンを名乗った。変化の中心的役割を果たしたのがバラ十字。結社には多くのオカルティスト、錬金術師、学者、文人、貴族、新思想に傾倒する宗教者が加入した。」（『外伝19』より）

近代フリーメーソンは、**テンプル騎士団の流れ**と**古代メーソン「秘密の力」の流れ**、その他が合流して結成されています。その近代フリーメーソンは**薔薇十字団を経由**することで発足しているのです。**薔薇十字団はテンプル騎士団からの流れにある**のです。

ただし、薔薇十字団を通して近代フリーメーソンは発足している、この意味は、**薔薇十字の名の下に古代メーソン「秘密の力」の流れが、そしてその他も合流したと見ることができる**のです。だからこそ結成された近代フリーメーソン、その結社に「オカルティスト、錬金術師、学者、文人、貴族、新思想に傾倒する宗教者が加入した。」結果となるのです。言い方は不適切かも知れませんが、**薔薇十字によって有象無象が集結した**のです。